



TITLE:

陰嚢内線維性偽腫瘍の1例

AUTHOR(S):

岩田, 裕之; 上水流, 雅人

CITATION:

岩田, 裕之 ...[et al]. 陰嚢内線維性偽腫瘍の1例. 泌尿器科紀要 2001, 47(6): 445-446

ISSUE DATE:

2001-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114536>

RIGHT:

陰嚢内線維性偽腫瘍の1例

公立忠岡病院泌尿器科 (部長: 上水流雅人)

岩田 裕之, 上水流雅人

A CASE OF FIBROUS PSEUDOTUMOR IN THE SCROTUM

Hiroyuki IWATA and Masato KAMIZURU

From the Department of Urology, Tadaoka Municipal Hospital

A 65-year-old man presented with a complaint of the swelling of his right scrotum. Ultrasonogram indicated a tumor in the right scrotum, but it was not apparent whether the tumor arose from the right testis or not. Right high orchiectomy was performed due to the suspicion of malignancy. The tumor arose from the right epididymis and spermatic cord. Histological examination revealed that the tumor was a fibrous pseudotumor in the scrotum.

(Acta Urol. Jpn. 47: 445-446, 2001)

Key words: Fibrous pseudotumor, Scrotum

緒 言

線維性偽腫瘍は肺・消化器・皮膚など全身に認められる疾患であるが、陰嚢内に発生する腫瘍性病変としては比較的稀であるとされている。今回われわれは、精巣上体、精索に発生した線維性偽腫瘍を経験したので報告する。

症 例

患者: 65歳, 男性

主訴: 右陰嚢内腫瘍

既往歴: 梅毒

家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 約5年前より右陰嚢内腫瘍に気付くも、無痛であることから、そのまま放置していた。しかし最近の3カ月間で腫瘍に増大が認められたために当科受診となる。

初診時現症: 右陰嚢内に弾性硬な鶏卵大の腫瘍を触知した。腫瘍は右精巣上体あたりに存在し、精巣と一塊となっていた。右精巣は触知可能であった。また腫瘍は皮膚との癒着は認めず可動性は良好であった。

入院時検査所見: 血液一般・生化学検査では特に異常は認められなかった。AFP, HCG- β は正常。梅毒がRPR法2倍, TPHA法675倍の陽性を示した。

画像検査所見: 陰嚢部超音波検査で腫瘍は長径6.3 cm大で、精巣とisoかややhyper echoicなlesionとして描出された。右精巣の描出は認められるものの、精巣と腫瘍との境界は不明瞭であった。

入院後経過: 良性腫瘍や精巣上体炎も考えられるものの、ある期間に急に増大する速度が早まっていたことやエコー上精巣原発も疑われ、精巣腫瘍を完全に

は否定できなかった。そのため2000年2月24日腰椎麻酔下で右高位精巣摘除術を施行した。固有鞘膜腔には黄色透明な液の貯留を認め、軽度の陰嚢水腫を呈していた。腫瘍は精巣上体に位置しており、僅かに正常と思われる精巣上体頭部が確認された。しかしながら、精巣と腫瘍との用手的な剥離は困難であった。またこのmain tumorより頭側にももう1つの硬結部分を認めた。摘出標本断面にて確認すると腫瘍は4.6×3.4 cm大、灰白色で充実性であった。肉眼的には精巣白膜の連続性は保たれており、精巣上体原発であると思われた。また頭側(精索)にも1.2×1.1 cmの腫瘍を認め、これらは数珠状につながっていた (Fig. 1)。



Fig. 1. Macroscopic appearance of the tumor. The tumor and testis was indicated by arrows (white arrows: tumor, black arrow: testis).

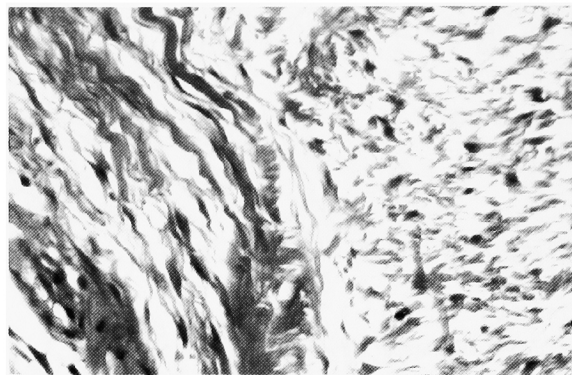


Fig. 2. Microscopic examination of the tumor (HE ×200). Pathological examination revealed that the tumor was a fibrous pseudotumor of the epididymis and spermatic cord.

病理学的所見：線維芽細胞の増殖と線維組織の増生を認めるが、細胞自身の核異型は軽度で、mitosis も認めず (Fig. 2), また同時にリンパ球集束の散在や石灰化、化骨などが見られることより、線維性偽腫瘍と診断された。顕微鏡的にも腫瘍と精巣とは境界明瞭で、腫瘍内に一部精巣上体や精索の残存組織が確認でき、腫瘍は精巣上体、精索原発であると考えられた。

考 察

線維性偽腫瘍とは線維性結節性増殖を伴いながら、しかし線維腫と異なり、反応性肉芽腫性増殖によって形成された腫瘍性病変として定義されている。Lewis¹⁾らは線維腫との鑑別に慢性炎症の有無をあげているが、Coop²⁾はさらに炎症性機序により腫瘍性病変をきたす疾患のうち、梅毒、結核、サルコイドーシスなどの特異的炎症を除くと述べている。好発部位は肺、皮膚、消化器など全身に認められるものの、泌尿器科領域における報告は比較的稀で、本邦ではわれわれが調べ得たかぎりでは、陰嚢内発生のは32例、ついで膀胱内発生の inflammatory pseudotumor (fibrous pseudotumor と同義語) の18例の報告が確認されている³⁾。陰嚢内発生に関しては患側に左右差は見られず、発生部位は固有鞘膜の10例が最多で以下精索、精巣上体と続いていた。Mostofi⁴⁾は45%に陰嚢水腫を伴い、30%に外傷や精巣上体炎の既往をもつと述べている。本症例でも陰嚢水腫の合併は認められたが、外傷の既往はなかった。本症例は梅毒の既往があり、腫瘍との関連性も疑われたが、梅毒による結節性病変、いわゆるゴム腫などとは本症例は病理像を異にしており、関連は否定的と考えられた。治療は腫瘍摘出が最も多く施行されているが、本症例のように悪性が否定できず11例に高位精巣摘出が行われている。術前診断として、奥間⁵⁾はMRI T2像で線維成分を反映する低信号が、鑑別診断の一助にな

るとしているが、画像診断に言及している報告は少なく、今後の課題と思われた。また鑑別すべき悪性腫瘍で陰嚢内に発生するものとしては横紋筋肉腫があげられ、本邦でも100例をこえる報告が確認されているが、30歳未満の発症が約8割を占めること⁶⁾や腫瘍の進展が比較的急速であることが本症例とは性格を異にしていると思われる。線維性偽腫瘍の精巣上体原発症例は1980年早川⁷⁾の報告を初めとして、われわれのものを含めて今までに9例報告されており^{8,9)}、そのうち4例に精巣捻転や精巣上体垂捻転の合併が認められている。しかし9例のうち、良性と術前診断を下し得たものは1例もなく、また精巣を温存できたのは4例のみであった。稀な疾患ということもあり、病理組織診断の結果に依存せざるを得ないというのが現状である。予後に関しては、線維性偽腫瘍は真の腫瘍でないため当然良好である。再発したとの報告もなく、それだけに最小の侵襲による治療が望まれる。

結 語

陰嚢内に発生した線維性偽腫瘍の1例を報告し、若干の文献的考察を加えた。

本論文の要旨は第171回日本泌尿器科学会関西地方会で発表した。

文 献

- 1) Lewis HY and Pierce JM: Multiple, fibroma of the tunica vaginalis. J Urol **87**: 142-144, 1962
- 2) 羽入修吾, 五十嵐俊彦, 福田剛明, ほか: 膀胱の炎症性偽腫瘍の1例. 泌尿器外科 **12**: 795-797, 1999
- 3) Coop ME: Pseudotumor of the orbit; a clinical and pathological study of 47 cases. Br J Ophthalmol **45**: 513-542, 1993
- 4) Mostofi FK and Price EB: Tumors of the male genital system. In: Atlas of tumor pathology, fascicle 7, series 2. Armed Forces Institute of Pathology, Washington DC, pp 151-154, 1973
- 5) 奥間裕次, 鷺野谷利幸, 浅井俊晴, ほか: 陰嚢内に発生した線維性偽腫瘍の1例—MRI 所見を中心に—. 沖縄医学会誌 **34**: 111, 1995
- 6) Williams G and Benerjee R: Paratesticular tumors. Br J Urol. **116**: 324-326, 1976
- 7) 早川正道, 馬場志郎, 中村 宏, ほか: 副睾丸に認められた線維性偽腫瘍 (fibrous pseudotumor) の1例. 臨泌 **34**: 1191-1194, 1980
- 8) Zhang X, Takeda S, Yamamoto N, et al.: Epididymal fibrous pseudotumor in a patient with torsion of an appendix epididymis. 西日泌尿 **59**: 343-345, 1997
- 9) 鄭 則秀, 岡 聖次, 世古宗仁, ほか: 精巣上体線維性偽腫瘍の1例. 泌尿紀要 **43**: 381, 1997

(Received on September 14, 2000)
(Accepted on December 28, 2000)